第１学年２組　音楽科　がっきとなかよくなろう（音楽づくり）

学習活動・予想される児童の反応	本時見られた深く学び続ける子どもの姿
１　前時で見つけた音やつなげ方を振り返り、めあてを立てる。 つなげかたを　くふうして　おんがくを　つくろう。 ２　音楽づくりの条件を確認し、３人グループでつなげ方を考え、音楽をつくる。 条件１：一人３回ずつ鳴らす。 条件２：反復や呼びかけとこたえをつかう。 どんな音を選ぶ？その音はどんな感じがする？ どんな順番で鳴らすと面白い感じになるかな。 「ぱんぱん」は元気な感じだから、最後に鳴らすと終わった感じがしていいかな。 「じゃらじゃら」と「こっこ」は音の感じが違うから、呼びかけとこたえにぴったりかな。 順番に鳴らすと面白い感じがしたから、反復を使って何度も繰り返してみよう。 リズムもよくしたいし、お話している感じにもしたいから、反復と呼びかけとこたえの両方を組み合わせてみよう。 図形楽譜に表し、学習者用端末で録音・録画しながら試す。 ３　代表グループがつくった音楽を紹介し、互いの良さを見いだす。 タンブリンの音と鈴の音とウッドブロックの音を組み合わせると、こんな面白くなるんだ。呼びかけとこたえを使うと、楽しくお話しているみたいだね。 ４　学習を振り返る。 ・お気に入りの音　・工夫したこと ・他グループの音楽で真似したいところ 私たちは元気な感じにしたいから、反復を使って、元気な音を何度も繰り返したよ。友達のグループの、音を重ねているところがきれいな音色で素敵だったから、私達のグループでも今度試してみたいな。 	○　前時までの音を見返すことができるように、前時のワークシートを活用したことで、本時の活動内容を捉え、もっと工夫したいとめあてをもつ姿が見られた。 ○　「つなぎかたのくふう」が具体的に想起できるように、本時の活動の参考動画を提示することで、「つなぎかたのくふう」を意欲的に選択・決定する姿が見られた。 ○　教師がグループをあらかじめ調整しておくことで、協働が苦手な児童も一緒に活動し、楽器や演奏の仕方を選択・決定することができていた。 ○　友達のグループの音を聞きに行ったり、楽器の交換をしたりできるように、場づくりの工夫をすることで、試して振り返って改善するというサイクルが生まれていた。 ○　楽器や楽器の演奏の仕方、つなげ方を自己選択･決定する場を設定したことで、どのように音を音楽にしていくかについて思いをもつことができた。 ○　学習者用端末を活用することで、自分達の音や図形楽譜を見返して振り返りや改善をする姿が見られた。 Ｃ１　どんな音をえらんだか教えて。 Ｃ２　私はウットブロックで「こっ」の音をえらんだよ。 Ｃ３　ぼくは鈴で「しゃん」をしたいな。 Ｃ１　私はトライアングルで「ちん」だよ。みんな明るい音だから、繰り返し作戦で楽しい感じにしようよ。 Ｃ２　いいね。最後はみんなで「せーの」でならすと、もっと楽しいかんじになるかも。 Ｃ３　いいね、一回試してみよう。 ○　自分達の音楽と友達のグループの音楽を比べながら聴くことができるように、聴く視点（音色、反復、呼びかけとこたえ）を予め示しておくことで、自分達がどのような工夫をしているのかをもう一度確認し、次時の発表につなぐ姿が見られた。

○　各楽器の数を人数分用意をすることで、意欲的に自己選択・決定をすることができた。
○　タブレット端末で楽譜を作ったり、録画をすることで、振り返りや共有をすることができた。
○　音楽づくりの領域では、自己選択・決定の場面を設定することは、どのように音を音楽にしていくかということを考えるために有効であった。
●　演奏しながらわきでてくる思いをもとに、音楽づくりを進めた方がよい。「こういう音楽にしたい」という思いから決めさせることは、発達段階から見て難しかった。